

大阪

高齢集會に参加 原正巳 事務局次長



台風6号の接近で、風雨注意報が出た6月2日、大阪市天満橋・ドーンセンターで、大阪退職者連合主催の「2026大阪高齢者集會」

が開催され全体の参加者は432名、うち女性は86名。JAM大阪シニアクラブからは19名が参加しました。集會スローガンは、「生き生きと安心して暮らせる社会にしよう!」。主催者挨拶で松本昌三会長は、この間の中心的な取り組みである介護保険制度・高齢者福祉制度について、大阪府と府下全自治体に対し2025年10月に要請書を送付し、2026年3月までに全自治体から回答を得て、意見交換を進めている報告がありました。

その後、連合大阪の赤瀬副会長から連帯の挨拶を受けたあと、日本退職者連合の高橋洋子事務局次長からは、「介護医療の見直しの動きがあるが、2026国会向け14項目の要請を政府に行ない、地方からも500件の要請行動の報告を受けている」と紹介されました。さらに「会員数は3年前から6万人減少し62万人、85万人目標に会員拡大に取組んでいる」と報告。その後、立憲民主党、国民民主党から挨拶を受けました。

そして、山口芳彦事務局次長は、基調報告で「いかなる軍事行動も排除し外交的対話により一日も早い停戦合意そして戦争終結させ、核兵器のない平和を」「原油高、円安の進行により、急激な物価上昇により実質的な賃金や年金は目減りしている」「維新の会は、三度目の住民投票の実施を強行しようとしており、『大阪都構想』反対の取り組みを強める」「『保険あつて、介護なし』の状況にならないように、私たち高齢者が安心して利用できる制度となるよう取組む必要がある」と報告し、松本会長のガンバロウで閉会しました。

東京

国会見学を実施 平木和裕 事務局次長

東京シニアクラブは5月26日、国会議事堂見学および委員会傍聴を実施しました。



〈裏面に続く〉

主張



指定ごみ袋は、普段は意識することの少ない生活必需品である。しかし、いざ手に入らなくなると、その存在の大きさに気付かされる。家庭ごみは毎日の暮らしの中で必ず発生する。指定袋がなければごみを出すことができず、生活に直接影響が及ぶ。私自身も「今ある在庫がなくなったらどうしよう」とい

う不安を感じた。原因の一つには、原料となる石油化学製品の供給不安があるという。ごみ袋の原料であるポリエチレンはナフサから作られるため、原油価格や国際情勢の影響を受けやすい。最近では米国とイランが戦闘終結に向けた合意に達し、原油輸送の要衝であるホルムズ海峡の再開や停戦維持に向けた協議が進められていると報じられている。今後、エネルギー市場が安定し、原料の供給改善につながることを期待したい。特に高齢者世帯は大変だと思う。車で何軒も探し回るのは難しく、「ごみを出せなくなったら困る」という声も聞く。指定ごみ袋は生活に欠かせない必需品である。

自治体の指定ごみ袋が店頭から姿を消して思ったこと

群馬シニアクラブ事務局次長 鈴木英二

その一方で、私の住む自治体では指定ごみ袋の入手が困難な場合に限り、市販の透明または半透明の袋でもごみを出せる臨時措置を実施している。対象となるごみや袋の条件には一定のルールがあるものの、「ごみを出せなくなるのでは」という市民の不安を和らげる対応として評価したい。また、同様の措置を講じている自治体もあり、住民生活への影響を最小限に抑えようとする努力が続いている。

こうした情報が十分に伝わっていれば、不安から必要以上に買い込む人も減るのではないだろうか。行政には供給状況や臨時措置の内容について、さらに分かりやすい周知をお願いしたい。また市民も必要以上の買いだめを避け、譲り合いの気持ちを持つことが大切だろう。

今回のごみ袋不足は、単なる品不足の問題にとどまらない。私たちの便利な暮らしが、資源の供給や物流網、そして世界情勢によって支えられていることを改めて考えさせられる出来事だった。

〈表面から続く〉

会員12名、同伴2名、役員8名、書記局1名の計23名が参加しました。

最初に参議院議員の会議室で村田きょうこ、郡山りょう両参議院議員の簡単な国会報告を受けました。

予定では、郡山りょう議員所属の厚生労働委員会の傍聴予定でしたが、時間が合わず内閣委員会に変更となりました。傍聴は混んでいて、チェックも厳しく傍聴時間は、5分と短くてあっという間に終了しました。

委員会では立憲の塩村文夏議員が、「自治体が保有する機微な個人情報对国家情報会議で集約され市民活動の萎縮につながる」との市民団体や地方議員の懸念に対する質問」が行われていました。傍聴が入っているためか居眠り議員は見当たりませんでした。

国会では、地方、各産業界から国会議員への要請、修学旅行の国会見学、国会前では国家情報会議設置法案の反対集会などが行われ、様々な人が集まり「国会は観光地」と呈しています。見学終了後国会から徒歩10分の中華料理店で懇親会を開催し、国会見学の感想や近況を報告し合いました。

広島

定期総会を開催

川本学 副代表幹事

JAM広島シニアクラブ



は5月24日、2026年度総会を広島県山県郡北広島町にある「芸北オーケガールデン」にて参加者27名で開催しました。

井上静夫代表幹事の挨拶、続いて来賓のJAMシニアクラブ箕浦元幸副会長より挨拶をいただきました。また、参議院議員の森本しんじ議員、郡山りょう議員、村田きょうこ議員、三上えり議員、広島県議会大童英徳議員より祝電のメッセージをいただきました。

25年度の活動報告を岡田壽夫事務局長、会計監査報告を久保田和昭会計監査より行われ承認されました。続いて26年度活動計画・予算・役員に関する件、他、満場一致で決定しました。活動計画では、組織の拡大、本部分行、広退連各会議行事、

交流会等に参加し連携を深めていくこととします。

総会終了後、懇親会が開催され、総会に先立って行われたグラウンドゴルフ大会の表彰が行なわれました。熱戦の結果、優勝・名越信男さん、準優勝・河本保さん、三位・久保田和昭さん、ブービー賞・北原治さん、十一位・箕浦元幸副会長となりました。また4名の方（久保田和昭さん、土井保明さん、玄田章作さん、山本久雄さん）がホールインワンをされました。今年も賞品は地元の広島県産お米でした。表彰後は、カラオケ・歓談等で盛り上がり、次回の再会を確認しあつて閉会をして、全員で記念撮影後、現地解散となりました。

大阪

ワイン工場を見学

原正巳 事務局次長

大阪シニアクラブは結成20周年後、2023年アサヒビール工場見学、24年タカラベルモント工場見学、25年神戸灘五郷の白鶴・菊正宗の酒蔵見学などを行ってきました。そして、26年6月13日、奈良県境に近い大阪・羽曳野市の大阪人気のワイナリー「河内ワイン」の見学を行いました。昭和初期にはブドウ出荷額が国内1位だった大阪。河



内ワインは、創業昭和9年の老舗ワイン企業。羽曳野市、柏原市一帯は明治時代中期よりブドウ栽培が盛んで、現在でもデラウェアや種無しぶどうの生産地として知られています。

ガイドの方から、クイズを交えた案内を受け、赤ワインは黒ブドウの果皮と種子ごと発酵させて造ること、白ワインは白ブドウの果汁のみを原料に造ることなどワインについて、いろいろなことを教えて頂きました。見学後は、見学プラン2200円JACKコースの5種類のワイン（金徳葡萄酒）の試飲をじっくり楽しみ、ブランド名「金徳」は、創業者の金銅徳一（こんどうとくいち）に因んで名づけられているとのこと。

試飲を楽しんだ後、最寄りの近鉄南大阪線駒ヶ谷駅から、阿部野橋駅（JR天王寺駅）へ戻り、2014年開業から11年間にわたり誇っていた高さ日本1位の座を麻布台ヒルズ森JPタワー（325m）に譲った駅前の国内2位の高さのあべのハルカス（高さ300m）12階にあるレストランで昼食懇親会を行った。

最後に、JAM大阪元委員長菊地栄男会員の挨拶「健康に心がけ生き抜いて、来年も仲間を誘い合わせ必ず参加しよう」との呼びかけを24名の参加者全員が確認し、懇親会を終えました。

京都

「特殊詐欺」対策の研修会開催

伊藤純夫 事務局長

京都シニアクラブの2026年度の「政策制度研修会」は昨年度に引き続き我々高齢者が直面する社会問題への理解を深めることを目的に「狙われる高齢者、特殊詐欺の手口とその対策（スマホ、パソコン等を利用した特殊詐欺の手口）」と題し、6月12日午後、京都労働者総合会館にて、各退職者組織から46名が参加し、中京警察署生活安全課の協力を得て開催しました。

第一部は京都府警察ネット安心アドバイザー菅原邦美さんから、スマホやパソコンを利用したフィッ



シング詐欺や投資詐欺の手口とその対策を、手作りビデオドラマでわかりやすく解説していただきました。

第二部は中京警察署生活安全課の田中道春警部補から、京都府下の特殊詐欺の発生件数やその被害の内容、またそのほとんどが海外からの国際電話によるもので、その対策としてスマホや固定電話への国際電話の着信を止める方法の説明を受けました。

講演のあと参加者に感想を聞きました。「テレビや新聞でよく見聞きする特殊詐欺について、その種類や手口についてよく知っているつもりではあるが、専門家から直接その内容や対策を聞くことでこれまで他人事だった特殊詐欺が自分の事として意識できるようになった」と理解を深める研修会となりました。